

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700062		
法人名	株式会社 ホームケアサービス山口		
事業所名	グループホーム のんびり村 米川		
所在地	山口県下松市下谷字砂の本179		
自己評価作成日	平成28年9月18日	評価結果市町受理日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年10月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、ダイバーショナルセラピーの視点から「老いることは楽しむこと」「朝起きる目的をつくる」の理論の基に支援をさせて頂いています。また、米川ならではの地域との温かい交流や、個人個人の楽しみや生きがいを見出せる生活を提供できることを目標としております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々に囲まれれば緑豊かな事前に囲まれた環境と地域の中で、職員は自治会の一員として年に数回の地域の清掃作業に参加され、利用者は小学校の入学式や卒業式、毎月の参観日に参加しておられ、児童や地域の人と交流されています。小学校や郵便局には「のんびり村米川コーナー」が設けられ、事業所だよりの掲示や利用者の作品が展示されています。小学校と地域で開催される地区民運動会や地域行事としてのサマージャンボリー、盆踊り、地藏祭り、どんど焼きに参加されたり、神社の祭りでは神輿が事業所に立ち寄るなど、地域に密着した活動がされています。事業所の秋祭りには地域の人が出店されたり、小学生のがよこい踊りで参加され、チラン配布や十ピイ、後片付けなど、地域と事業所が一体となって開催されています。社協ボランティアの外出支援や紙芝居、オカリナ、ハーモニカ、ピアノ演奏などのボランティアの来訪があり、利用者は多くの人達との交流を楽しんでおられるなど、利用者が地域で暮らし続けるための支援に取り組んでおられます。運営推進会議には、自治会長、地域づくり代表、地域環境整備委員会代表、公民館職員などの多くの地域の人達が参加され、意見交換をする中で災害対策のマニュアルの見直しや県の地震発生時の避難対応の出前講座の受講など、サービスの向上に活かされています。全職員は外部研修に年1回は参加の機会を得て、ターミナルケアや身体拘束、リーダー研修等を受講されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	米川独自の理念を作り、皆が目につく所に掲示して、管理者と職員で話し合い、利用者がその人らしく地域で暮らせるサービスに日々取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回のミーティング時や日常業務の中で理念について振り返り、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の住民として年間を通してボランティアや学校行事・地域の行事等にも積極的に参加し、又、日々の散歩等でも交流している。	自治会に加入し、職員は年数回、地域の清掃作業に参加している。利用者は小学校の入学式や卒業式、運動会や毎月の参観日に出かけている他、小学校や郵便局に「のんびり村米川コーナー」が設けてあり、利用者の作品展示や事業所だよりが掲示してあり、地域の人とふれあう機会となっている。地域の盆踊り、地蔵祭り、どんど焼き、米泉湖サマージャンボリーに利用者や職員が一緒に出かけている。神社の祭りでは神輿が事業所へ立ち寄っている。事業所の秋祭りには地域の人の出店や小学生のよさこい踊りでの参加があり、チラシ配布や準備、後片付けなどを、地域と事業所が一体となって開催している。小学生の体験学習の受け入れやボランティア(紙芝居、オカリナ、ハーモニカ、ビオラ、チェロの演奏会)の来訪がある他、社会福祉協議会の協力を得ての外出支援もある。近所の人から花や野菜、栗、干し柿等の差し入れがある他、近所の人と話し相手に来訪しているなど、地域とつながりながら日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会、行事やイベント等の参加時に認知症の方に対する質問や相談を受けることがある為、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組み状況等の報告や話し合いの中で頂いた意見や提案を速やかにサービスの中に活かさせてもらっている。	月1回のミーティング時に管理者が評価の意義をガイド集に基づいて説明し、職員間で話し合いをして、項目毎に記入したものを管理者と計画作成担当者を中心にまとめている。職員は日常業務や記録方法についての振り返りを行っている。評価を活かして、県の出前講座の土砂災害時の避難訓練方法について受講するなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況等の報告や話し合いの中で頂いた意見や提案を相談して行事や生活の中に活かさせてもらっている。	新たに駐在所職員の参加を得て、会議を2ヶ月に1回開催している。自治会長、地域づくり代表、地域環境整備委員会代表、公民館職員、防災アドバイザーなど15人の地域メンバーの参加があるが、家族の参加がない。実績報告や利用状況、外部評価について報告し、話し合いを行っている。消防団員と消防署OBの2人の緊急時の連絡網の加入について話し合いをして、協力を得られることが決まるなどサービス向上にいかしている。	・運営推進会議を活かした取り組み ・家族メンバーの参加の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き、運営や現場の実情等を積極的に伝えたり、市役所へ出向き相談したりしている。	市担当者とは、不明な点について、出向いて相談して、助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に利用者状況等について情報交換をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、ご家族には身体拘束をしないこと、その為のリスク説明をし理解を得ており、利用者には自由な生活を送って頂くようにしている。	「介護職が知っておきたい身体拘束・介護虐待」等、外部研修に職員の代表が参加し、復命研修や研修資料の閲覧で全職員が学び、身体拘束の内容や弊害について理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては職員同士で気をつけている。気になる言動については管理者が指導している。玄関は施錠していない。利用者が外に出たい様子に気づいたら職員が一緒に出かけている。「身体拘束・高齢者虐待」としてマニュアルの見直しを行い、いつでも閲覧できるようにし、職員一人ひとりが携帯しておりいつでも学べる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を定期的に社内外でしており、職員間で注意しあえる環境作りを心がけている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援としてできる事は声掛け、見守りですべて頂いている。掃除、料理、洗濯たみと手伝ってもらっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、理解や納得が得られるまで説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの苦情や相談を受けた時は早急に対応し、すぐに現場に落とし込み話し合い、今後の運営に反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や介護計画の見直し時、行事参加時(秋祭り、忘年会など)、電話などで意見や要望を聞く機会を設けて、家族との関係づくりに努めている。個々の利用者のケアについての意見や要望にはその都度対応している。運営に反映されるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は全体会議を行い、意見や提案を聞き運営に反映させている。意見や相談がある時はその都度時間を作り聞いている。	月1回の全体会議時や毎日の申し送り時などに、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者や計画作成担当者は日常業務の中でも聞くように努めている。職員からは利用者の外出の機会を増やしたいという提案があり、利用者一人ひとりの外出について話し合いをして改善に取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の機会を持ち、職員間の環境や人材の適材適所に向けた努力をしている。賞与は査定制。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人研修の参加を社内外で積極的にとりにくんでいる。	外部研修は情報を伝え、段階や経験に応じ勤務の一環として参加できる機会を提供している。全職員は年1回は参加の機会があり、ターミナルケア、口腔ケア、身体拘束、リーダー研修等を受講し、月1回の全体会議時に復命研修を行い、資料は閲覧できるようにして共有に努めている。社内合同研修は年3回、福祉用具や薬の話などを行っている。内部研修は年間計画を作成し、2ヶ月に1回職業倫理、介護技術、認知症ケア、虐待などを講師派遣を受けて実施している他、薬剤師から薬の話聞くなど、適時に勉強会を実施している。新人職員は先輩職員について1ヶ月間の指導を受けるなど、日常業務の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内での他の事業所との交流は、お互いのイベントの手伝いや研修や会議等を通じて行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者には事前に会い、直接話を伺うことで要望に少しでも近づけるよう努力している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設見学して頂き、その際困りごとや要望を伺っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と相談しながら、今必要な支援の対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事など日々の生活をしていくうえで、職員と共に協力し合う関係づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を取り互いに協力し利用者支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、地域の行事や催し物に参加している。	家族の面会、親戚の人や近所の人、友人、幼友達などの来訪がある他、年賀状や手紙を出す支援をしている。自宅周辺のドライブ、一時帰宅、馴染みの神社参りなどの他、家族の協力を得ての外出、外食、外泊、墓参り、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の要望にも耳を傾けながら、利用者同士の関係を把握し、座席等配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方もこれまでの関係性を大切にしており、家族の相談にもものっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の意思や希望に耳を傾け強制はせず本人本位に考え過ぎて頂いている。	入居時に基本情報や「好きなことアセスメントシート」を活用して、利用者の職業、子ども時代の思い出、誕生地、趣味、得意なこと、馴染みの場所などの把握に努めている。毎日の申し送りや日々の関わりの中での利用者の言動や表情、気付いたことなどを経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。利用者個々の言葉としての記録の記入方法や情報の共有方法が十分とまでは言えない。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	・記録方法の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人への聞き取りや家族から協力を得ての情報をファイルに集め、職員は目を通して把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人ひとりひとりのペースを把握し、得意なことを負担にならない程度で任せている。やる気を引き出すよう心掛けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を確認し本人の思いを取り入れケア内容を作っている。随時プランが変更できるように情報が細かく収集できるように担当制にしている。	管理者や計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心に、利用者の思いや家族の意向、主治医や訪問看護師等の意見を参考にカンファレンスを開催して介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の状態の変化や要望に応じて、その都度見直しを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や職員や主治医、看護師等より情報を収集し介護計画に反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の理解、了承を得て、できる限り本人のしたいことの希望に沿えるよう外出したり、時間を作っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は盛んで、日々の散歩に郵便局に立ち寄り、作品の発表の場の協力も得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に訪問診療を受けている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある。月2回の訪問看護師の来訪時には利用者の健康管理や職員からの相談を受けている。他科受診は必要に応じて事業所が支援をしている。受診時の情報はメモを渡し、受診結果は電話や面会時に家族に伝えている。職員間では業努日誌や医療ノート、薬ファイルなどに記録し共有している。夜間や緊急時には訪問看護師に連絡し、協力医療機関の指示を仰ぎ、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に口答、電話にて連絡相談をし、連携をとっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時職員が付き添い、個人ファイルによる日頃の様子や体調の変化の情報を伝えている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点でできる事を家族に説明し話し合い、理解を得ている。	重度化や終末期に事業所としてできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から本人、家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設など、今後の方針を決めて共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	年4回の法人内の安全委員会で事例を報告、相談し現場で助言を基に事故防止に努めている。引き続き定期的な研修や訓練を全職員が行い、グループで実践し学ぶ。	ヒヤリハット、事故報告書にその場の職員で発生状況や対応策を話し合い、記録して申し送り時に共有している他、月1回のミーティング時に再検討している。年4回開催している社内全体安全委員会で検討し、アドバイスを受け、事故防止に努めている。事故発生時に備えて、社内全体安全委員会で転倒事故対応の研修に参加し、復命研修をしている他、感染症予防、事故防止、救急などのマニュアルの見直しをして、職員一人ひとりに配布しているが、実践力を見につけるまでには至っていない。	・全職員による初期対応や応急手当の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害避難訓練、消防避難訓練を行い指導を受けているが、引き続き定期的な研修や訓練を行い実践し学ぶ。	年2回、消防署の協力を得て昼夜想定の実践を実施し、利用者と一緒に通報、消火、誘導、避難訓練をしている他、災害時の地域の避難場所として協力することになっている。県の協力を得て土砂災害時の出前講座を実施している。消防団員と消防署OBが緊急時の連絡網に加入しているが、地域住民が参加しての訓練までには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに敬意を持って声掛けし接している。	マニュアルがあり、接遇マナー、コミュニケーションの研修をして職員は理解している。職員は利用者を人生の先輩として接し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。気になる言動については、管理者や計画作成担当者が注意している。個人情報の取り扱いについて理解している他、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聴き可能な限り実現している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「編み物をしたい」の希望に道具を揃え支援する。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が持参した浴衣を着て楽しめる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人意見の食事量や好みを聞いたり、本人の希望で職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。	差し入れの野菜などを使って三食とも事業所で調理している。刻み食やとろみ食、腎臓食など利用者の状態に合わせての形態の工夫をしている。利用者は下ごしらえや盛り付け、調理の手伝い、配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗いなどできる事を職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、職員は持参した弁当や利用者と同じ物を食べながら会話を楽しんでいる。おやつづくり(月見団子、ホットケーキ)、季節の行事食、事業所の秋祭り時の食事会、外食の支援などの他、家族の協力を得ての外食などで食事を楽しむことのできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶が好きでない方には他の者を代用して水分を摂って頂いている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でしっかり時間をかけて歯磨きをされている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの方の排泄リズムをつかみ自立に向けた支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、一人ひとりに配慮した声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりの排便の状況を把握し、水分摂取や運動への働きかけを行い予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を尊重し入浴を楽しんで頂けるよう、調整している。	月曜日から土曜日までの毎日、14時から16時の間に利用者の体調や希望に合わせてゆっくりと入浴ができるよう支援をしている。入浴したくない人にはタイミングをみて声かけの工夫をしている他、日時の変更、職員の交代などの工夫をしている。状態に合わせてシャワー浴、足浴、清拭での支援をしている他、入浴剤、バラ湯、菖蒲湯、柚子湯などで気分転換を図るなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重して休んで頂いたり、足を拳上し気持ち良く眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬情報」を用意いつでも確認が出来る様にしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合った家事をお願いしている。又「お茶の日」「習字の日」等レクリエーションも提供している。	テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、縫い物、ぬり絵、貼り絵、折り紙、風船とバスタオルを使ったゲーム、タオル体操、ラジオ体操、棒体操、習字、ビニール紐手工芸、干し柿づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップ掛け、花の水やり、草取り、下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器洗い、移動図書館の利用、小学校の入学式や卒業式、運動会、参観日への参加、お茶会、ボランティア(紙芝居、オカリナ演奏)との交流など活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「どこかに行きたい」「ドライブに行きたい」との本人希望にてドライブに出かける。	散歩、買い物、地域の行事(地藏祭り、どんど焼き、運動会)、四季の花見(桜紫陽花、紅葉など)、花火大会、ホテル見物、クリスマスイルミネーション見学、笠戸島、海峡館などの他、家族の協力を得ての外出、外食、外泊、墓参り、法事への参加など日常的に外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望で買い物に行き、本人の欲しい物を選んだ頂き購入の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もおり、何時でもご家族と連絡をとれるよう配慮している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた作品を共同で作成し共用スペースに掲示している。その都度状態に合わせて快適に過ごして頂けるよう工夫を心がけている。	山々に囲まれた自然豊かな環境で、共用空間には自然の光が差し込み、季節の花や季節感のある作品が飾ってある。窓辺の大きなソファ、廊下の長椅子は利用者が外の景色を眺めながら思い思いに過ごせる場所になっている。広々としたリビングは温度、湿度、換気等に配慮し、心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、お茶を頂くテーブルとは別に随所にソファを設置しており、雰囲気作りを工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みのダンス、ソファ等持ち込まれている方もいらっしゃる。	CDカセット、テレビ、冷蔵庫、ダンス、椅子、テーブル、ソファ、三段棚、時計、衣装ケース、整理棚などの使い慣れたものを持ち込み、折り紙や習字などの利用者の作品、行事時の写真、カレンダーなどを飾っている。季節の草花も生けてあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けを工夫したり、福祉用具を併用等してできる限りの自立支援を心がけている。安全面にも気を使い、家族とも相談し理解を得ている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム のんびり村米川

作成日：平成 29 年 3 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	24	利用者個々の言葉としての記録の記入方法や情報共有方法が十分とまでは言えない。	一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努める。	利用者個々の言葉としての記録の記入方法や情報の共有方法を会議で話し合い工夫する。	1年
2	35	全職員が初期対応や応急手当の実践力を身につけるまでに至っていない。	全職員が感染予防、事故防止、救急の実践力を身につける。	年4回の法人内の安全委員会で事例を検討、その後も見直しをし事故防止に努める。全職員が引き続き定期的な研修や訓練を行い実践する。	1年
3	36	全職員が災害時に円滑に避難する方法を身につけるまでに至っていない。避難訓練の際に地域住民が参加していない。	全職員が災害時の避難方法を身につける。地域との協力体制を築く。	全職員による定期的な研修や訓練の継続と、避難訓練の際の地域住民の方々への声掛け。	1年
4	5	運営推進会議に多数、地域メンバーの参加があるが家族メンバーの参加が少ない。	家族メンバーの参加と運営推進会議を活かした取り組み。	家族メンバーへの定期的な運営推進会議のお誘い。運営推進会議を利用して声掛けし、メンバーの協力を得てサービスの向上に取り組む。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。